

D-wing

ディー・ウイング
VOL. 4

質の高いケア環境を目指す介護情報誌

CARE VIEW

QOLの確保とリスクマネジメント②

CARE Point

知っておきたい褥瘡への対応②





大田区立特別養護老人ホームたまがわ
養護第一課長 社会福祉士 高橋好美さん

施設・薬剤の投与はもとより安全対策としての抑制を一切行っていない特別養護老人ホームたまがわ。前号では、利用者の人権を守り、QOLの確保を目指しながら、いかに介護事故を防止するかについて、養護第一課長の高橋好美さんにお話を伺いました。本号では、それを実現可能にする組織の責任体制と職員への動機付けについて伺います。

次の事故を防ぐためのヒヤリハット報告

どんな状態であれ、人間として生活していく上で、必ずリスクは存在します。リスクがあることを認識した上で、その実態を分析し対策を立てるためにも、たまがわでは職員にヒヤリハットの報告書を出してもらっています。

今では、「ずり落ちを発見した」というレベルでも、事故報告書としてあげてきました。最初は、「自分が起こした事故ではないのに、なぜ報告書を書かなければならないのか」と、職員サイドに抵抗がありました。しかし、報告書が、情報を共有し分析することで、次の事故を未然に防ぐためのものであることや、決して報告書を書いた個人を責めるためのものではないと

いうことを周知徹底することで、状況は変わってきました。こうした目的に照らして、報告書はチェックリスト方式ではなく、文章形式で事故内容、対処とその後の経過、事故原因と対策などを記載してもらっています。

職員の安心を支える組織としての責任体制

報告があつた段階で、責任は課長である私に移ります。職員は報告をすることで、安心して利用者の身体拘束をすることもなく、生き生きと仕事ができるのです。

「安全対策として一切の利用者の身体拘束はしない」という方針を掲げて、なにかあつたら、個人の責任を追及するという組織体制であれば、

情報を開示してご家族のマンパワーを有効活用

万一の事故を恐れるあまり、すぐに身体拘束という元のシステムに戻ってしまうことでしょう。職員には「事故に限らず、心配や不安があつたら必ず連絡が欲しい」と言っています。私に報告することで職員が安心して仕事ができるのなら、どんなレベルのことでも報告として受けるようにしています。私に連絡が取れなければ、係長へ。それが組織としてリスクマネジメントを支える体制だと考えています。

ケアの質というのは、いかにせんマンパワーに比例します。ある程度のマンパワーが確保されることがケアの質の

維持には不可欠です。とはいえ、職員数は限られており、より高いケアの質を求めようとすると、ボランティアの方やご家族の協力が欠かせません。家族懇談会では、事故報告書から分析したデータをご家族に開示しています。そして、事故発生状況や発生場所(図1)、発生時間帯(図2)などのデータをお見せし、発生場所については居室、ベッド脇、食堂が、発生時間帯については食事の前後が多いことなどをご説明します。そして、「おいでになるのでしたら、食事の時間帯に来ていただくと事故のリスクが少なくなると思つています」とお話しします。

こうしたインフォメーションをお流しすることで、ご家族の手を一番事故の起こりやすい時間帯にお借りすることができますようにもなります。

職員を辞めさせないこともリスクマネジメント

事故防止も含めたケアの質をあげるには、マンパワーに加えてやはり熟練されたケア

技術が必要となります。そのためには、今戦力として働いている職員を育てていくことが重要です。職員が頻繁に入れ替われば、それだけケアの質を維持することも難しくなります。一人ひとりがこの仕事をもっと頑張ってくれるようにと、周りがサポートする姿勢も大切ですよ。

待遇が良いはずなのに、なかには年間三分の二近くの職員が辞めてしまふ施設もあると聞いています。やはり職員のモチベーションが上がらないことに最大の原因があるのではないのでしょうか。例えば、お年寄りの介護を仕事として選びながらも、実際にお世話するなかで、やりがいを見いだせずにいる職員もいます。そんな時には、「お年寄りの尊厳を守るといふことは、目の前にいるお年寄りが生きてきた時間を守るといふことだ」と話します。

食物を投げつけたら、大きな声を出したり、つばをかけたりますお年寄りを見ると、最初からそういう特殊な人たちがいると思つてしまいがちですが、そつではありません。一人ひとりの力は弱くても、

その方たちがいたから今の社会がある。70年、80年と社会に貢献してきたその時間を大事にするという認識に立つことなのだ、説明します。そうすると、「ああそうか、それなら尊敬できる」と。このように、多面的・客観的な視点を提供することは、新しい価値を持つて自分たちの仕事を見直し始めるきっかけにもなるのです。職員のモチベーションを喚起することも、広い意味でのリスクマネジメントだと私は考えています。

お年寄りのQOLが上がるれば、自分たちのQOLも上がる

「いずれキャリアを積んで資格をとつて辞めていくのだから、『たまがわにいたから、さすがね』と言われるようになるか、『だから、たまがわを辞めたのね』と言われるようになるかは、あなた自身にかかっているのよ」と、職員に問いかけています。実際には、辞めていく人間はとて少ないのですが、そして、「あなたたちが、お年寄りのQOLをもう少し

良くしようとする努力をする。時間をかけ、自分の知識をフル活用し、そのために技術も身に付ける。それでお年寄りのQOLが上がれば、そのプロセスが自分自身のQOLの向上にもつながる。QOLは、生活の質のみならず、人生の質でもある。そしてなにより自分の仕事にプロとしてのプライドを持つことができる。そのプライドは自分自身の今後の生き方も支える。だから誰のためでもなく、自分自身のために、がんばつて自分のキャパシティを広げていって欲しい」と話しています。

自画自賛かもしれませんが、職員は、みんないい顔をして仕事しています。

図2 事故発生時間帯別発生件数



食事の前後に事故が発生しやすいことを説明し、ご家族の協力を仰ぐ。

図1 事故発生場所別発生件数



家族懇談会での報告データ。事故発生は居室・ベッド脇、食堂に多い。

第2回 CARE Point

知っておきたい 褥瘡への対応②



監修：山本 泉先生
山本皮膚科医院院長
東京都皮膚科医学会長

東京都皮膚科医会では、診療可能な皮膚科医を紹介する「とこずれ110番」というテレフォンサービスをしています。
(☎03-5332-1112)
<http://www.jocd.org/tokyo>

褥瘡ができないように、まず予防に注意しましょう。皮膚が赤くなった段階で見つけて早めに対処すれば、重症の褥瘡にならないようにくい止めることができます。万一、褥瘡が発生した場合は、主治医、皮膚科医、看護師、介護士、薬剤師、栄養士などのスタッフが連携して対処することが大切です。

● 褥瘡の予防

① エアマットレス 使用による除圧

予防の第一のポイントは、圧迫を除くこと（除圧）です。体圧分散器具としてもっとも有効なものはエアマットレスで、褥瘡の起きやすい人には、体圧分散のためのエアマットレスを早期から使うことが重要です。使用にあたっては、エアマットレスの下に手を入れて、エア不足による底つきがないかを確認します。エアの調整は体重の目盛りで行いますが、女性は下半身が重いので、少し高めに設定する方がよいでしょう。また、体圧分散のためのクッション



ヨンや体位交換を助ける道具なども、種々なものが開発されています。ひざ同士がぶつからないよう、かかともクッションを使いましょう。座位では、坐骨部の圧迫が起るので、座る時間は2時間以内にとどめ、車イス用の高密度ウレタンマットレスなどの体圧分散器具を使うようにしてください。

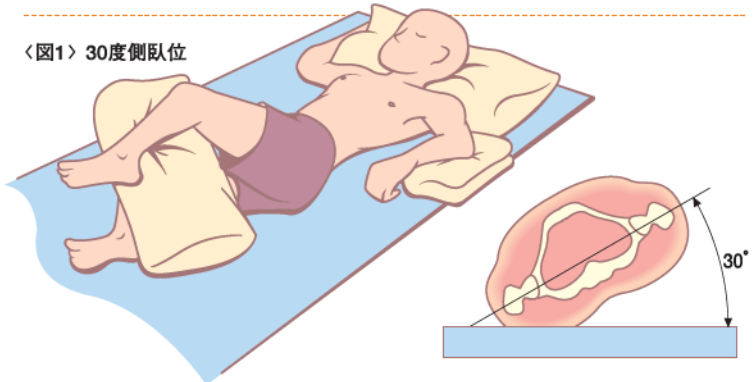
② 体位変換

可能な限り2時間ごとに体位変換を行います。腹臥位や90度側臥位は現実には実施困難なことが多いので、クッションやナーセンドバ

ッドを使用して、仰臥位と左右30度の側臥位(図1)を2時間ごとに交換することをお勧めします。

コストの面から見た予防

褥瘡は、予防と軽いうちに早く治すことで、コストを削減することができま。体圧分散器具のエアマットレスなどは安価ではありませんが、重症の褥瘡ができてしまうと治療費はその何倍もかかり、スタッフの手もかかることになります。予防をすることが、コストパフォーマンスを高めることにつながります。



〈図1〉30度側臥位

③ 寝かせきりにしない

寝たきりになっても、日常生活動作が自立できないだけで、なかには自分である程度は動ける人もいます。寝かせきりにしないよう、残された機能を生かすことが大切です。たとえば、介助によってトイレまで歩ける場合は昼間はトイレを使用する、座れる場合は食事はイスや車イスに座るなど、できる限り動かすようにしましょう。

● 褥瘡の早期発見の決め手は観察

入浴や着替えの介護をするときに、圧迫をうける部分の皮膚が赤くなっていないか、傷ができていないかなど、状態を観察しましょう。特に褥瘡がでやすいおしり(仙骨部)などは見逃さないようにしましょう。

表面が赤くなったときの 介護のポイント

「骨の突出部分の皮膚が赤くなったら、マッサージすればよくなる」と思っていないませんか。それは間違いです。マッサージの摩擦によって傷をつくっ

● 褥瘡の発生を助長するもの

たり、皮膚組織にずれを生じさせて、かえって褥瘡の原因をつくってしまいます。骨の突出部分は皮膚の状態を観察するだけにとどめ、まずは体圧分散を考えます。

① 低栄養

寝たきりとなった高齢者は、低たんぱく血症や貧血などの栄養状態が低下していることが多くみられます。栄養状態も、実は褥瘡の予防や治療に大きく関わり、アルブミン値3.5g/dL以上、ヘモグロビン値11g/dL以上が望まれます。褥瘡の治療のためには、栄養状態を改善するように、食生活の面も考えます。できる限り経口栄養での栄養保持が必要で、摂食不良のときには経腸栄養剤を処方してもらい、栄養を補います。食物は、栄養バランスを厳しく言うよりも、むしろ利用者の好きなものを、食べられるものを多く食べるように勧めましょう。

② 湿り気

失禁、下痢、発汗などによって皮膚が湿っていると、褥瘡がでやすくなります。

③ 摩擦・ずれ

介助時の皮膚のまさつやズレも、褥瘡の発症に関わります。ベッドのギャッジアップの時間は、食後の最小限にとどめ、尾骨部の皮膚のずれを予防します。

④ 骨の突出

体位変換のときは、臀部の皮膚をひっぱらないように患部から離れた部位をもつて行います。やせている人で、骨が突出していると、そこに褥瘡がでやすくなります。主に臀部の仙骨部がでやすいところです。

● 褥瘡の発生を予測するために

施設利用者が1日のうちほとんど時間をベッドで過ごすようになったら、褥瘡が起きる危険性が増大します。そういったときに褥瘡発生のリスクをアセスメントするために、おもに看護師が利用しているブレインスケールという評価方法があります。ブレインスケールとは、知覚の

創傷部位の保護材として

創傷部位の保護材として

最高級素材が外科用パッド

シングルパッドA
SINGLE PAD

特長

- かさばらない高吸収力がタイプ
- モラさずメレにくい透湿性防水フィルム
- 目立たないイダ色調カラー
- あてガーゼとの併用もOK
- 使用時に便利な1枚パック・滅菌済み

白十字

認知、湿潤、活動性、可動性、栄養状態、摩擦とずれという6項目からなり、それぞれの項目を採点することによって危険度を評価するものです。さらに、危険度の高い項目を優先して対処するようにすると、ケアの計画を立てるときに役立ちます。褥瘡対策には介護士も看護師もいっしょになって取り組んでください。

「もう1度下着をはきたい」その思いにお応えします。

パッド専用ホルダー **サルパおしりピットタリパンツ** 特許申請中

個別対応を積極的に
お考えの施設・病院に最適

【失禁=おむつ】という画一的な考え方から、ADLまたは要介護度に応じたケアを推進する為の必須アイテムです。特にトイレ誘導時、パッドの立位交換時に適しています。

尿とりパッドの種類・形状を
選ばない新構造を採用

レギュラータイプのパッドはもちろんのこと、今まで下着型ホルダーでは不可能だった夜用(大型)パッドも確実にホールドでき、多尿時や夜間帯の使用も可能です。また、パッドはしっかり固定しつつ、身体への圧迫感是最小限に抑える構造を採用しました。



※ピンクベージュとグレーの2カラー
M・L・LLの3サイズをご用意しております。

おむつに違和感がある
方への対応として

痴呆症状のある方、おむつに違和感がある方にもお奨めできます。

失禁以外の用途にも

痔の手術後、出血の対応に苦慮している方にもパッドをしっかりホールドし、安心して日常生活を送ることができます。



使用済みおむつ・ポータブルトイレ専用消臭剤

サルパ **パッケージ** 食品添加物100%

天然系抗菌成分配合

安全性の高い食品添加物を100%使用した天然系消臭成分のため、安心してお使いいただけます。

消臭成分を独自処方

便と尿にそれぞれ適した消臭成分を独自に処方。そのため従来品に比べ非常に高い効果が期待できます。



好みを選ばない無香性

においを元から分解するため、敢えて不要な香りは添加しておりません。

消臭効果に除菌効果もプラス

不快なにおいを消すと同時に、除菌も行います。

編集部より

季節もようやく秋らしくなり、D-wingも第4号となりました。発行回数を重ねるごとに、お伝えする内容も金沢でのセミナー、山梨県の施設様など幅の広い展開を見せてきています。首都圏以外の地域でも、「他の施設・病院ではどんな取り組みをしているのか教えて欲しい」等のご要望がよく聞かれます。そのお声に応えられるよう、より多くの地域へDケアシステムのネットワークを広げていきます。

お問い合わせ・お便りは

〒171-0033 東京都豊島区高田2-4-25
TEL.03-3987-6117

白十字株式会社「D-wing」編集部まで

続々開催決定!
Dケアセミナー。

首都圏の各地で開催してきたDケアセミナーですが、埼玉エリアにおいて2度目の開催が決定しました。生活の中でのリハビリテーションをテーマにした講演や施設様による事例発表などを実施する予定です。来年初めには東京地区、そしてその後も各地での開催を予定しています。まだセミナーを開催していない地域でも随時開催をしていきますので、ご要望をぜひお寄せください。

Dケアセミナー開催日程

- | | | | |
|------------|------|-------------|-------------------|
| 第6回Dケアセミナー | 埼玉地区 | 2003年11月19日 | 13時30分～ |
| | | | 大宮ソニックシティにて(大宮駅前) |
| 第7回Dケアセミナー | 東京地区 | 2004年2月 | |
| | | | 詳細な日程、会場等は未定です。 |